

令和7年度

徳島市徳島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

夢に向かってともに伸びゆく授業実践
・学力・学習意欲向上策の工夫とシェア
・タブレット活用で個別最適で協働的な学び

校長

安西 政和

学力向上推進員

吉浦 早紀
井原 ひとみ

【各校の取組状況の把握について】

学力向上についての校内研修や職員室での情報共有など、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な知識・技能が身につけている生徒が多い。 ○●昨年度アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒が83% ●漢字の読み書きや語彙の定着に課題のある生徒がいる。	・各教科に関する個別の知識・技能が身につけている。 ・学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連付け、他の学習の場面で活用することができる。	・学力向上の手立てを共有し、実践を行う。 ・各教科に関する個別の知識・技能を身に付けさせるための手立てを考える。(特に、授業を理解できていないと感じている2割の生徒への具体的な手立て)		【教職員】 ・「まなびポケット」を利用した、指導案の共有 ・知識・技能を身につけさせる手立ての実施→アンケート結果97% 【生徒】 授業の重要な点を理解し、学んだことを生かして課題に取り組んでいる→アンケート結果80%(昨年度と設問を変更している)	教員による手立て共有や知識・技能の指導は進んだが、依然として2割の生徒への支援が課題として残った。次年度は個々の理解状況を丁寧に把握し、基礎事項の補充、学習方法の提示、タブレットを活用した復習機会の充実など、個別最適な支援を強化し、学力の底上げを図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○班での話し合いで積極的に意見を出せる生徒が多い。 ●なぜそうなるのかという理由を考えたり、データを分析したりすることに課題がある。	・各授業(単元)の学習課題に対して、話し合い活動等を通じて新たな見方に気づいたり、考えを深めたりしたことを適切に表現することができる。	・思考力・判断力・表現力等を育成するために、教科部会で生徒の思考を深めるための手立てについて検討する。 ・学んだことや考えたことを生徒自身の言葉で表現させる場を設定する。		【教職員】 ・年度初めの学年部会で評価について検討 ・生徒の思考を深めるための手立ての実施→アンケート結果97% 【生徒】 話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる→アンケート結果83%	生徒は話し合い活動に積極的に参加しているが、意見を言う生徒に偏りが見られたり通り意見を伝えるだけで終わってしまう場面が見られたりする。次年度は発問の工夫、話し合い活動の強化、考え方を比較する場面の増加を図り、論理的に考え、表現できる力を育成する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○●昨年度アンケートで「学習課題に対して自ら考え、自ら取り組んでいる」と答えた生徒が79%。 ●自己成長のために、発展や活用の場面で、粘り強く取り組むことができる生徒が少ない。	・学習課題に対して、自己調整を図りながら粘り強く考え、自ら取り組むことができる。 ・自分の学習段階に適した学習内容・学習方法を生徒自身で選択し、取り組むことができる。	・学習意欲向上のための手立てを共有し、実践を行う。 ・デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、生徒が自身の成長や課題を把握し、次の段階に進めるような取り組みを行う。		【教職員】 ・「認め育てる」肯定的な学習指導の実施→アンケート結果97% ・タブレットを授業等で利用→アンケート結果75% 【生徒】 授業で大切な点を意識しながら、分からないことがあっても自分なりに考えたり工夫したりして、学んだことを生かそうと粘り強く学習に取り組んでいる→アンケート結果80%	生徒の約8割が粘り強く学習に取り組んでいる一方で、自己調整や学習方法の選択に課題がある生徒も見られたため、学びの見通しと振り返りの機会を増やし、個に応じた学習方法を主体的に選択できる力を育てる指導の充実を図る。